くろべ水の少年団（黒部市）

▲団員36名を代表して
6年生4名が発表しました。

▲おそろいのユニフォームで
気持ちもひとつに。

これまでも、これからも、水と一緒に。

くろべ水の少年団

指導者協議会会長：金山　盛雄先生

指導教諭：金山　盛雄先生
西田　五郎先生
杉澤　興一先生
滑川　徳子先生
能澤　祐一先生
王生　　透先生
木戸　瑞佳先生

事務局：山本　憲司
（黒部市吉田科学館）

発表児童：6年生　4名

くろべ水の少年団は、平成4年8月に発足。黒部市は、環境省「名水百選」や国土交通省「水の郷」に認定されるなど名実共、豊富な水や良質の水で有名である。我々に限りない恵みを与えてくれる「水」資源を現代に生きる私達から、次の時代を担う子供へ、更に子々孫々へと継承し守っていきたいとの願いから、市内10校の小学5年・6年生を対象に募集し目的を遂行するものである。今年は36名の男女の生徒の応募で構成された。

発表テーマ

くろべ水の少年団 活動報告

▲学校のワクを超えた活動が
高く評価されました。

黒部市内各校より自主的に希望して集まった5・6年生男女36名により結成したチームが、自然の中に溶け込んで指導者の先生に教わり、自らデータを採り、自然を学び、環境の仕組みを会得する。

このことは平成4年より続け、先輩より引継いだ事、また後輩に引継ぐ事を含め、自然体験の活動を発表する。ちなみにデータや感想文は毎年、国土交通省に報告し歴史を積み上げています。

先生方より

将来、郷里の自然は勿論の事、大きくは地球環境を守る子供達に、正しく育って貰う為に

水環境に恵まれた黒部に生まれ育った子供達が、その恩恵に気付かずに人生を終わるのではなく、そのありがたさを意識して暮らせる人に育って欲しいと願って、学校のカリキュラムでは触れない、自然とのふれ合いの中で体感して貰うことで、より短時間に「水の大切さ」や自然とのかかわりを実感してくれることを願ってプログラムを実行している。

自然界での水のしくみや役割を楽しく理解するだけでなく、市内10校の友達との交流が、少子化時代の子供達には別の意味での副産物となって表れている。今年は洪水後の調査にも当たったが、2年間と云う制限の中での体験ではあるが、それぞれの調査は連続につながっている事で長い歴史が続くことの大切さも伝えたい。

▲まずは観測器具の使い方を教わることなどから活動をスタート。

▲ふだんは見られないダムの内部へ…発電のしくみにふれました。

▲黒部川を通して、さまざまな交流が広がっていきます。

▲みんな楽しい思い出がいっぱいできました。

考えたこと・感じたこと

2年間の活動で、自然の中で学び、水について考えたこと、感じたことなど。

山、川、海、自然との出合いがとても胸わくわくするものでした。それは地形や動植物というそれぞれの生きものに出合い、専門の先生にその場で説明してもらえるので、わずかの時間で次から次へと不思議なことがわかってくるからです。また平ぜい出合うことのない水生生物を探し、そのことを教えてもらうことで学者になった気分になる事もうれしいことです。そして学校では会えない他の学校の友達と一緒に話したり、ごはんを食べたりすることでなんだか楽しくなります。それと自然は人間だけのものでないことにも気付きました。大人になっても、この活動で教えてもらったり、自分で見つけ気付いたことを忘れないで大事にしたいと思いました。

学習テーマの設定

“名水の里”とともに

誕生から13年の歴史を重ねてきた「くろべ水の少年団」。結成以来、水に親しみ、観察し、その大切さを理解する活動に取り組み続けています。

結団式では受け継がれてきた団旗が授与されます。先輩の歩みをふまえつつ、新しい活動へ向け心が引きしまります。

学習の展開

大地をうるおす清水

わき水が豊富な黒部川扇状地。園家山(そのけやま)では、つきることなく地下からわき出る清水を観察しました。

水質を確かめよう

黒部川はほんとうにきれいな川なのか？上流・中流・下流に分け、水生生物の調査を通して水質を確かめました。

場所で異なる生物の様子

集中豪雨などの影響か、上流や下流では生物が少なかったけれど、中流ではたくさんの生き物たちがいて、水がきれいだとわかりました。

きれいな海岸と生物を守る

黒部川が海へ注ぐ荒俣(あらまた)海岸では、水の少ない砂地でたくましく生きるハマヒルガオなどを観察。清掃活動にも参加しました。

豊かな水のみなもとへ

黒部川の源流を訪ねて、立山登山もしました。険しい山から流れだす水が大地をうるおし海へそそぐ…自然の雄大ないとなみを感じました。